

Okahata

NEWS LETTER

vol.34

2023

10

OKAHATAHEADS



ケミカルマテリアルJapan2023直前号!

今年も出展します

ケミカルマテリアル
Japan 2023

10/23 mon. → 11/27 mon.

社長から:

夏、自由研究の次は、読書(と音楽)の秋!

はじめに

表紙デザイン(TALKING HEADS オマージュ)の理由は、後ほど。

展示会は学園祭だぜっていうノリで、
動画／資料を作り込むのは弊社の悪い癖(笑)、
今回も渾身の予告編、作りました！
(あっという間の30秒。最後まで一気にお楽しみください👉)

ケミカルマテリアル Japan 2023

今年も出展します！

予告動画 [Click](#)



大学時代は学園祭に青春を捧げた萩田です(笑)

委員長時代、少なくない予算を大学側から引っ張り出し、
当時禁止されていた“お酒”を復活(正確には黙認とも?)
させたのは良い思い出。やるんだったら楽しまにや損損！
岡畑興産は全力でケミマテを盛り上げます。

ところで、ケミマテとは:

コロナでリアルの接点も展示会も激減した2020年、化学工業日報さんが率先して作ってくれた、**化学技術、情報、人が集うオンラインの「場」**、それが「ケミカルマテリアルJapan」です。今年で4回目。2023年10月23日(月)～11月27日(月)までと、去年より期間が長くなり、1社あたりの出店コンテンツ10、動画4つに拡大。昨年よりもお役立ち情報にアクセスしやすくなっています。

化学品とフットウェアの専門商社、 岡畑興産のブースでは：

- PEKK
- ポリアミド流動性向上剤/分子量調整剤
- α -グルコ(生分解性キレート剤)
- フルフラールとその誘導體
- アミノ酸系活性剤
- 1,2-ヘキサジオール
- 靴用の素材探してます

などなど、一味違うお役立ちコンテンツ／資料／動画で
皆さまをお待ちしております。

弊社ケミマテ実行委員長は山田。動画出演から全体プロ
デュースまで大活躍👍、ありがとう！

ぜひとも、事前登録👉Click よろしくお願ひします！

ケミカルマテリアルJapan2023

2023年**10月23**日(月)10:00～
11月27日(月)10:00

オンライン特設会場 <https://www.chemmate.jp>

X やってますヨ

(個人でもコソツとフォローのお願い👤)

お役立ち情報のほかにも、こんな海外情報も

→ WC現地観戦レポ👉Click

“中の人”ももちろんですが、個人アカウントからの
コソツとフォローもお待ちしております！



最近の

くつ
ナビ

“ようわからん世界を わかりやすく”

: 米本です。

フットウェア産業にどっぷり浸かっていると、産業構造が独特で、材料選定プロセス、品質評価方法なども、他の産業と比べると、“ようわからん世界”なんかなあと思うことが多々あります。

靴開発／生産の専門知識が求められるのは、言うまでもありませんが、私たちは靴づくりの専門家を目指していません。目指すは、靴開発／生産に詳しいケミスト。そういう私も一応ケミストで、実は、弊社の化学品事業部出身。この産業／業界にどっぷり浸かりつつも、化学品屋目線／知見があるから出来たことがたくさんあり、これから益々増えていくことを確信しています。

靴を知ってるケミストが、“材料”の力で靴のイノベーションをサポートする。これが我々のミッションなのです。

一昔前は、石化製品の塊と揶揄されたスニーカーも、今では“Better Future”、サステナブルのためにケミカル・フル活用。“靴を知ってるケミスト”の働きどころは無限大。私たちは、この可能性を叫ぶだけでなく、“**ようわからん世界**”を**わかりやすく**分解、解説し、いろんな方々からのアイデア、情報をいただく呼び水になりたいのです。先月ONL33では、萩田(靴も愛するケミスト笑)が“靴の素材探しています”と叫んでくれた結果、たくさんの反響・ご提案をいただきました。本当にありがとうございます。

さて、今月のくつナビでは、“ようわからん世界”を分かりやすく!という私たちの取組をピックアップ。

くつ
ナビ

- OKAHATA SHOES Ver2 [▶LINK](#)
プロジェクト始動!
1st Sampleができるまで
- OKAHATA SHOES Ver2 [▶LINK](#)
2ndサンプルが到着!
出来上がりはいかが?
- 台湾発、完全防水靴下シューズ... ? [▶LINK](#)
- 自由なものづくりコミュニティ [▶LINK](#)
”AKXY LAB”に参加しています!

社長から ..

夏、自由研究の次は、

読書(と音楽)の秋!

岡畑典裕



音楽のお話から..

秋っぽい音楽の代表格といえば、サティ(エリック・サティ)の「ジムノペディ」。モテ音楽としてしか聴いてなかった気がしますが(残念ながら効果なく😓)、実はサティって、超前衛音楽家で、BGM(やアンビエント)というコンセプトの大元を作ったすごい人。晩年の「家具の音楽」(1920年)は、家具

のように生活に溶け込む音楽を目指した、
聴いてはいけない音楽。👉👈

それって、AISOさんと僕が考えている、
オフィスBGMのあるべき姿ではないです
か!..集中したら聴こえない。決して、意識
を持っていかない(くちずさめない)。けれ
ど、なにか僕らっぽい、心地良い音楽。

聴いてはいけない「家具の音楽」の生演奏
に聴き入ろうとした観客を怒鳴り散らし
た、というのは、サティらしい変人エピソード。
社員の皆さん、弊社BGMに聴き入って
も怒鳴らないので、ご安心を。

読書のお話..

最近何度か、読む本の選び方を聞かれた（ちよつと嬉しい）のに、ちゃんと答えられず、猛反省。改めて、答えを考えてみました。

回答..関心／好奇心が向くまま、買って機を待つ、積読派

勧められた本も即入手して、積読本棚へ。心から読みたい（もしくは、読まなきゃ）って思うまでひたすら、機を待つ（常にガチ読みしている本が何冊もあるので、回ってきません）。それでも、何かのきっかけで読み始め、面白かったら、関連図書もまとめて買い漁っての一气読み。

分かりやすい例が、ONL32のスカンクワークス。その存在をPodcastで知り、とりあえず一冊、積読本棚へ。「日の丸コンテナ会社ONE」をきっかけに、出島組織といえば、スカンクワークスじゃない？という理想ゲームを経て、手に取って見たら、すぐエピソード満載。その勢いでロッキード・マーティン関連図書5、6冊を夢中で読み進めた結果が、あのONL32。[スカンクワークス](#)

心から知りたいと思ったことだけを、とにかく**紐解きたい**。いろんな角度で、**紐解きまくる**ための本選び。これが僕の長い**回答**。



今ハマっているのは、音楽もの。オフィス
BGMプロジェクトを立ち上げて以来、
徐々に音楽を聴きまくるモードに。

AIISOさんから届いたBGMデモを聴き
ながら（聴いちゃダメなんですけど、フィー
ドバック返さないといけないし。サティさん
スイマセン🙇）、ふと立ち寄った本屋で目に
飛び込んできたのが、オレンジ装丁のこの
本。



「音楽のはたらき」

／デヴィッド・バーン、イースト・プレス

（帯がまた良い…。音楽は、人を解放し、人生を肯定する。）

冒頭のサティとBGMの関係は、この本で
知ったこと。デヴィッド・バーン（＝Talking
earsのフロントマン）が、音楽がなぜ心を
動かすのか、新しい音楽はどう生まれ、産
業になり、どこに向かうのかを、**明るく紐解
いてくれる、音楽と人生讃歌のような本で
す。**デヴィッド・バーンのファンじゃなくても、
音楽好きなら、秋の夜長にぜひ的良本。

〆積ん読本、が増殖を続ける社長の本棚の、最近の「一軍コーナー」



もう一冊：



「ピクサー流 創造するちから
(Creativity, Inc.)」

／エド・キャトムルほか著、石原薫訳、
ダイヤモンド社

ピクサーの共同創業者エド・キャトムルが書いた「Creativity, Inc.」(原題)はタイトルからして、クリエイションの話かと思いきや、**組織文化の本**。今ハマってっているというより、バイブル。何十回と読んでますが、毎回

新しい発見があつて、組織文化本の最高峰じゃないかと勝手に思っている、名著です。

稀代のアニメーション職人だったエド・キャトムルがこの本で**紐解こう**としたのは、ヒット作品を生み出すスタジオをつくるのではなく、**問いかけを続ける創造的な企業文化を育てること**、この文化を、ピクサーの創業メンバーがいなくなった**ずっと後まで残るような力強いものに育てること**。

僕なりの言葉で言う**と、練る練るがでる企業文化を育てること**。

(ONL 33: 突飛で雑なアイデアを、シャー

プでイケてるアイデアに) **ワンリッソ**

ジブリにも、エド・キャトムルがいたらなあと思わせる、そんな一冊。

最後に、ONL 34のカバーのお話。音楽と人生を紐解こうとする**好好爺、デヴィッド・バーン (Talking Heads)**に捧げたオマージュ。今でも踊れる名盤**REMANENCE**の「**THE**」をパクらせていただきました！

今号もONLを読んでいただき、ありがとうございました。ケミマテをよろしくお願ひします！

■ 編集後記

Let Freedom Read !

(社内報Gazette2023年10月号より転載)

前号で川口さんがAudio Bookについて書かれていました。読む方法はいろいろですが、自分の読みたい本を読む、子供たちにもよほどのことがない限り読みたい本を自由に読ませてあげるのは、当たり前
の権利であり義務でもあると思います。

広島市教育委員会は、市立小学校3年生向けの平和学習教材に掲載してきた漫画『はだしのゲン』を2023年度から削除し、別の被爆者体験談に差し替えることを決めました。同作は作者中沢啓治氏の被爆体験をもとにした漫画で、累計発行部数は1,000万部を超え世界各国で読み継がれています。家計を助けるために浪曲を歌って稼いだり、栄養不足で体調を崩した母親に鯉を盗んで食べさせたりするシーンが現代にあわない、盗みを肯定している、被爆の実相に迫りにくい等が削除の理由として挙げられていますが、削除するのではなく、むしろ読むことによって子供たちが多くのことを考え、学び、現代との相違点や子供たちの疑問などは大人たちが丁寧に説明し補ってあげればよいことなのではないかと思えます。

ワシントンポスト(オンライン版)に“Schools nationwide are quietly removing books from their libraries”という記事が掲載されたことがあります。近年アメリカでは禁書令が急増しており、宗教、人種、性などに関する多くの本を不適切とし学校図書館において子供たちの自由な閲覧を制限する法律が提出されたり、撤去運動が起こっているそうです。何か『はだしのゲン』撤去に共通する「危うさ」を感じます。

#MeToo 運動の時と同様に日本では新聞ネタにはなるものの、時間が経つと何事もなかったように忘れられてしまいます。しかし、アメリカではその状況を危惧した図書館員、書店、出版社、ジャーナリスト、教師、読者など、本に関わる人々が集結し、1982年「禁書週間」(Banned Books Week)を立ち上げ、あらゆる本を自由に読む権利を守る「運動」として継続的に活動を行っています。今年は“Let Freedom Read!”を合言葉に10月1日から7日まで行われました。

本にまつわる温かいお話をひとつ。自宅の庭先や歩道沿いに鳥の巣箱のような本棚を設置し、そこに本を入れて置き、誰もが本を持ち帰り読み、読み終わったらそこへ返すという「リトル・フリー・ライブラリー」。もちろん本を寄付するのも大歓迎。2009年にトッド・ポル氏がウィスコンシン州ハドスの自宅に設置したのが始まりです。今では

90カ国以上に広がり蔵書数も9万冊を超え、世界最大規模のマイクロ・ライブラリーに成長した、まさにリトルでフリーなライブラリーです。我が家の近くにも見つけました。巣箱作製キットもネットで売っているようです。あなたの住んでいる近くにもひょっとしたらあるかもしれません。↓ 障害者の方々が運営しているコーヒー店の片隅に



(kiki)

ニュースレター **バックナンバー**はこちら



Okahata
NEWS LETTER
—
BACK NUMBER

岡畑興産株式会社 ニュースレター／毎月発行

2023年10月16日号

発行：岡畑 典裕

岡畑興産株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1-5-6

TEL：06-6251-8252 FAX：06-6251-8278

Okahata
OKAHATA&CO.,LTD

OKAHATA NEWS LETTER
2023.10.16 / Issue 034

© 2023 オカハタとアイデアと